



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

---

CITATION:

表紙ほか. 日本外科宝函 1930, 7(appendix)

ISSUE DATE:

1930-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/200617>

RIGHT:

ARCHIV  
FÜR  
JAPANISCHE CHIRURGIE  
VII. BAND, BEIHEFT, 25. DEZEMBER 1930.

日本外科寶函

第七卷 附 錄

猪子名譽教授古稀祝賀記念論文集

昭和五年十二月二十五日發行

---

Festschrift

zum 70. Geburtstage  
von

Geheimrat Prof. Dr. S. Inoko

in Kyoto

am 4. April 1930

INOKO-ITO-VEREIN KYOTO

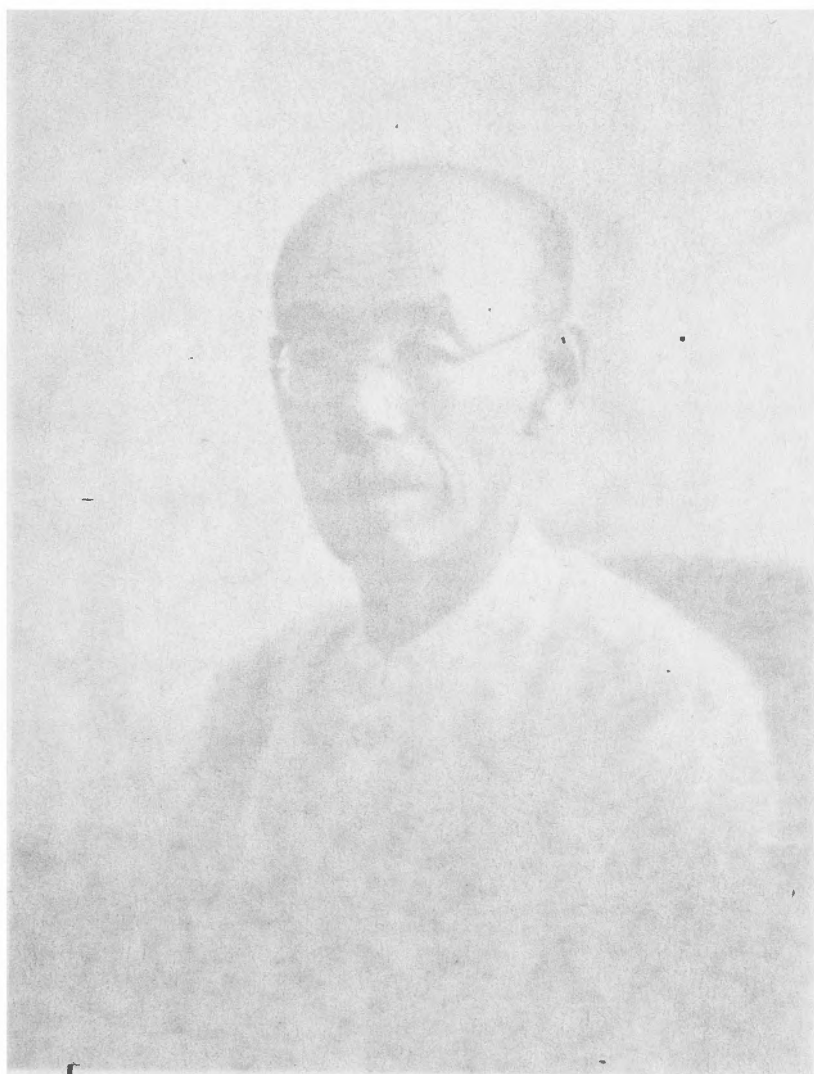
京都帝國大學醫學部外科學教室內

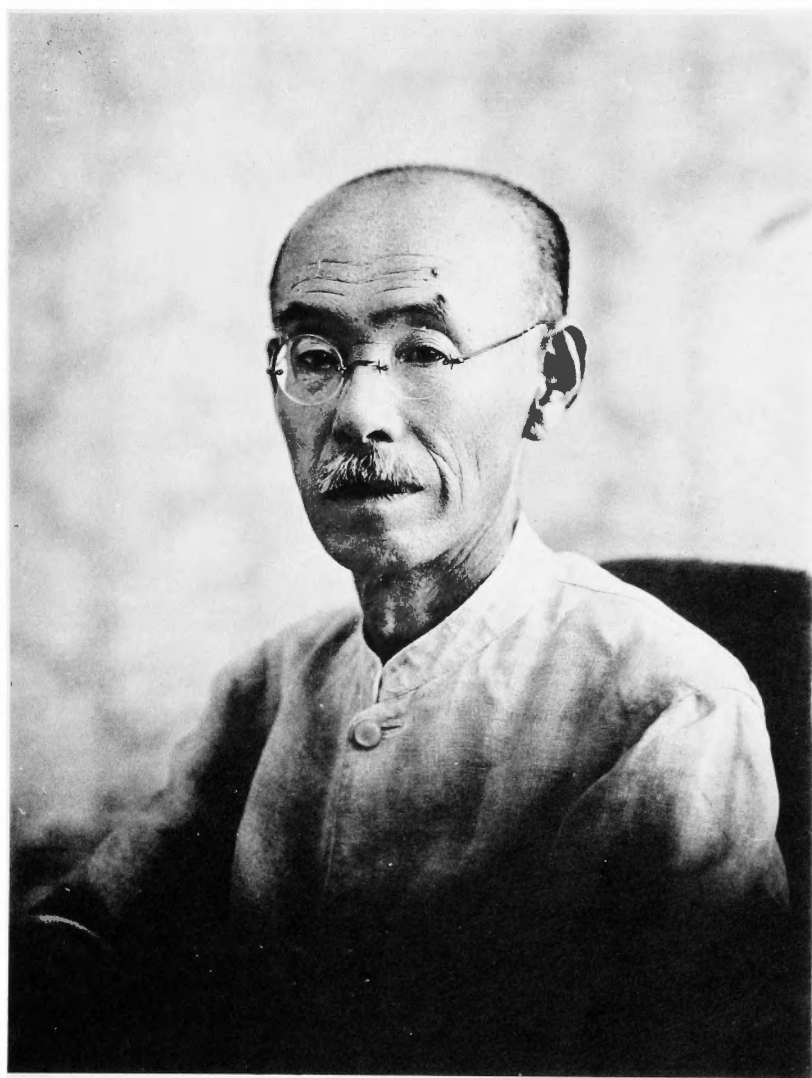
日本外科寶函編輯室

# 日 本 外 科 寶 函

第 七 卷    附 錄

猪子名譽教授古稀祝賀記念論文集





*S. Inoko.*

古稀ノ壽祝賀ノ爲ニ  
本論文集ヲ謹テ

猪子先生ノ膝下ニ捧ク

門生一同

## 献 本 ノ 辭

猪子先生ハ昭和五年四月四日ヲ以テ滿七十歳ニナ  
ラレ益々御健康デアリマス 奥國デハ昭和五年七月  
三十一日ニ滿七十歳ニ達シタ Anton v. Eiselsberg ハ國  
法ノ明文ニヨリ引續キ大學教授トシテ活動シテ居リ  
マスガ 猪子先生ノ大學教授トシテノ公生涯ハ我ガ  
帝國大學ノ制度ニ從ヒ他ノ教授ト同様既ニ十年以前  
ニ於テ停止サレテ居リマス 併シ猪子先生ノ臨床家  
トシテノ生涯ハ之アルガ爲ニ決シテ休息モ停滯モシ  
テハ居リマセン

先生ニハ他ニ何等ノ道樂ト申スモノガナク診斷ノ  
困難ナ患者ヲ診察シ考究サレルノガ何ヨリノ慰メデ  
從テ外科學教室ノ圖書室ヘモ時々姿ヲ現ハサレルコ  
トハ何人モ知ツテ居ル所デアリマス 其ノ系統的デ  
徹底的ナル診察ノ仕方及ビ診斷ニ向ツテノ吟味勘考  
ノ様子ハ每常吾々ノ模範トシテ居ル所デアリマス

先生ハマタ俗世間ニ向ツテハ何物ヲモ求メズ何物  
ヲモ語ラズ何物ヲモ發表セズ何事ヲモ企圖シテ居ラ  
レマセン 所謂富貴名聞榮達ノ類ハ先生トハ全ク沒  
交渉デアリマス 併シ専門ノ學術ニ關シテモ又ハ世  
相時々ノ出來事ニ對シテモ先生ハ必ズ一家ノ見識ヲ  
抱イテ居ラレマス コレハ先生ニ親炙スル者ノ齊シ  
ク認メル所デアリマス 京都帝國醫科大學ガ創立サ  
レル當時ニ於テ現在ノ京都府大療病院ヲモ其ノ管掌

ノ下ニ屬セシメ若イ助手連ノ修業場ト爲サントノ先生ノ御意見ノ如キハ我執ヲ脱却シタ先生ノ細心ナル卓見ヲ示シタモノ、一ツデアリマス

先生ガ三十年來ノ痼疾ヲ持ツテ居ラレナガラ壽古稀ニ達シテ益々御健康デアラレルノハ生死ニ直面シテ悠揚迫ラズ現世ニ處シテ名聞榮達ニ超然タル併シナガラ秋毫ノ末ヲモ苟モセザル細心ノ御注意ノ結果デアツテツマリ先生ノ全人格ノ然ラシメタ所ト申上ネバナラスト考ヘマス

先生ノ古稀ノ壽ノ祝賀ノ爲ニ四方八方ヨリ同門ノ學徒ノ寄セタ論文ハ積リテ此ノ一卷ヲ爲シマシタガ今ヤ之ヲ獻呈スルニ當リ先生ハ吾々門生ニ取ツテハ理想トシテ仰ギ瞻ル唯一ツノ[活キタル手本]デアルコトヲ先生ニ御告ゲシテ永ク吾々ノ中心點ニ於テ今後益々御健康デ在ラレルコトヲ祈ツテ止ミマセン

敬 白

昭和五年十二月廿五日

猪子伊藤兩教授記念會

門 生 一 同



# 日本外科寶函第七卷附錄

## ＝ 內 容 目 次 ＝

下腿潰瘍ノ治療經過及ビ治療機轉

附、感染創ノ一新治療方針……………藤 浪 修 …… ( 1 )

平壓開胸術，平壓開胸洞橫隔膜開腹術，平壓開胸開腹術

又ハ平壓開腹開胸術ニヨル橫隔膜，縱隔竇，食道，噴門部

等ノ手術ニ就テ……………大 澤 達………… ( 9 )

黃色葡萄狀球菌ノ胸腔内感染ニ對スル同名菌生・煮兩免

疫元ノ局所治療の乃至豫防の差別ニ就テ……………富 田 正 來………… ( 44 )

直腸脱ノ手術の療法ニ就テ……………荒 木 千 里………… ( 66 )

特發性總輸膽管囊腫ニ就テ……………神 部 信 雄………… ( 74 )

血漿中<sub>レ</sub>フィブリノーゲン<sub>ヲ</sub>量ト赤血球沈降速度トノ關係

竝ニ結核患者ニ於ケル診斷上ノ價值……………前 田 和 三 郎………… ( 84 )  
百 溪 定 七 郎

神經終末ノ形態學的研究

(第二報告) 神經毒ニヨル變化……………橋 本 松 之 助………… ( 95 )

中國人ノ骨及關節結核ノ統計的觀察……………橋 本 松 之 助………… ( 107 )

骨折治癒時ニ於ケル生化學的研究 (第三回報告)

鹽化<sub>レ</sub>カルシウム<sub>ヲ</sub>溶液靜脈内注射ノ骨折治癒現象ニ及ボス影響(其ノ二)

家兎體重毎斤1.0%鹽化<sub>レ</sub>カルシウム<sub>ヲ</sub>溶液0.3%隔日反覆注射實驗

……………大 野 一 信………… ( 115 )

骨折治癒時ニ於ケル生化學的研究 (第四回報告)

黃燐<sub>レ</sub>オレーフ<sub>ヲ</sub>油溶液非經口の投與ノ骨折治癒現象ニ

及ボス影響……………大 野 一 信………… ( 147 )

本邦人手腕關節<sub>レ</sub>レントゲン<sub>ヲ</sub>解剖學ト共ノ臨床的意義……………西 郷 一 惠………… ( 181 )

腰髓麻醉ノ腸管運動ニ及ボス影響ニ就テノ實驗的研究

附、腸管麻痺時ニ於ケル腰髓麻醉ノ治療の價值……………岩 島 武 次………… ( 223 )

諸種灌腸及ビ肛門刺戟ノ小腸運動ニ及ボス影響ニ關スル

實驗的研究……………山 本 明 治………… ( 278 )

臨床的見地ニ於ケル胃壁動脈管ノ分布ニ就テ

(第二報) 家兎ノ胃粘膜ノ血管系統ニ就テ……………多 米 時 彦………… ( 306 )

臨床的見地ニ於ケル胃壁動脈管ノ分布ニ就テ

(第三報) 犬ニ就テノ研究……………多 米 時 彦………… ( 314 )

連鎖狀球菌葡萄狀球菌混合 <sub>L</sub> コクチゲン <sup>7</sup> 軟膏塗擦ニヨル	盛 彌 壽 男	..... (330)
皮下組織ノ局所性自働免疫.....	大 隈 義 朗	
側迷入甲狀腺癌ノ一例.....	田 口 正 素	(351)
慢性纖維性包裡性腹膜炎(糖皮腸)ニ就テ.....	藤 田 登 武	(363)
陳舊 <sub>L</sub> アメーバ <sup>7</sup> 赤痢後ニ發セル腸壁肥厚, 收縮並ニ		
狹窄ニ就テ.....	櫻 井 雅 四 郎	(375)
外傷後ニ於ケル腦壓亢進ノ療法.....	上 田 寛 一	(381)
腸管運動検査法就中固定硝子管挿入法ニ就テ.....	長 井 貞 治	
所謂瓦斯腹膜炎ニ就テ.....	矢 田 貝 薫	(389)
十二指腸移動症ニ就テ.....	熊 野 政 明	(401)
胸骨化骨ノ <sub>L</sub> レンゲン <sup>7</sup> 學的研究.....	福 里 信 藏	(415)
牛血漿塞子ヲ以テスル止血困難ナル創ノ止血.....	宮 崎 松 記	(435)
平壓開胸術ノモトニ手術ヲ行ハレタル外傷性横隔膜	盛 彌 壽 男	(443)
<sub>L</sub> ヘルニア <sup>7</sup> ノ臨床例.....	辻 村 秀 夫	(456)
潜侵熱ニ就テ.....	荒 木 千 里	(469)
<sub>L</sub> スピロヘータ・バルリダニ <sup>7</sup> 感染セル家兎睪丸ニ		
含有セラレタル <sub>L</sub> イムベジン <sup>7</sup> ノ立證.....	異 馨	(534)
<sub>L</sub> イムベジン <sup>7</sup> ヲ產出スル生物ノ限界ニ就テ.....	青 柳 安 誠	(564)
腎血管ノ短時間結紮ガ腎臓ニ及ボス影響ニ就テノ實驗的研究		
(第一回報告 腎靜脈ヲ結紮シタル場合).....	鈴 江 瑞 穂	(581)
生體ニ於ケル淋巴管ノ注入法ト其ノ外科的應用.....	原 守 藏	(617)
甲狀腺化骨性纖維腫ノ一例.....	高 木 四 郎	(621)
蟲様垂ノ穿孔ニ因スル急性廣汎性		
腹膜炎ニ對スル手術ニ就テ.....	堀 内 千 仞	(624)
急性腹膜炎療法ノ批判.....	吉 益 雄 太 郎	(632)
急性蟲様垂炎ニ對スル所謂早期手術ノ意義.....	副 島 豫 四 郎	(662)
腹部聽診ニ就テ.....	副 島 豫 四 郎	(665)
<sub>L</sub> アルコール <sup>7</sup> ノ消毒力並ニ其滅菌法.....	宇 山 俊 三	(669)
植物性神經系統外科ノ過去ト將來.....	伊 藤 弘	(675)
<sub>L</sub> イムベジン <sup>7</sup> 現象及ビ煮沸免疫元ノ研究.....	烏 潟 隆 三	(688)
外科學教室ノ行歩ニ就テ.....	烏 潟 隆 三	(694)

# 臨床家に好適の 微毒診斷液

„Meinicke“

Balsam-Extrakt für  
Trübungs-Reaktion.

(M. T. R. 3)

マイニツケ氏  
微毒  
濁濁  
反應液

本法は一九二三年デンマークのコペンハーゲンに開  
かれたる萬國血清研究會議に於て、反應の鋭敏正確に  
して操作設備極めて簡單、然かも其結果は室温にて僅  
に一時間にして肉眼を以て判別し得られ、常にワ氏反  
應の代用として臨床醫家に最適の微毒診斷法なりとし  
て世界の専門大家の確認を經たり。

◇本品はマイニツケ氏製造檢定の原品なり。

〔包裝〕 一瓶五cc入（一回要量〇・一cc）金三圓

## 反 應 用 具

小口徑試驗管、ビベット、三%食鹽水その他  
美麗木箱入にて金七圓。右の反應用器具にマ  
イニツケ氏反應液を添附して金九圓五十錢。

— 送料 金三十六錢 —

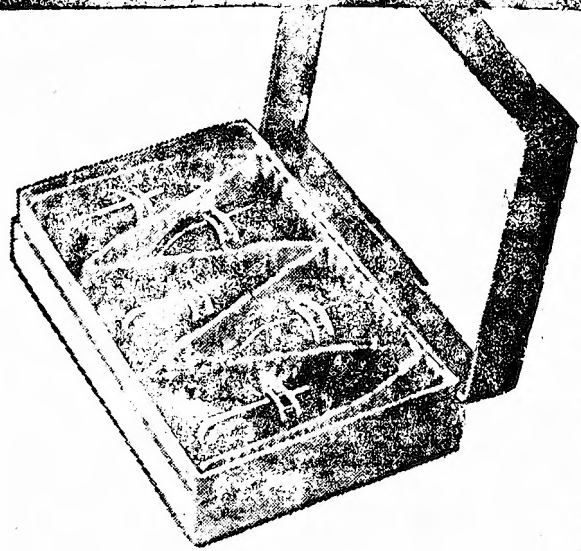
一時間にて結果判明、操作設備極めて簡單

町修道區東市阪大  
町本區橋本市京東

店商衛兵長田武  
店商衛兵新西小

式特  
研  
式後  
社

元寶發  
店理代東關



# 淋毒性副睾丸炎 關節炎に ネオカルゴノゲン

醫學博士井尻辰之助氏は  
ネオカルゴノゲンを推奨して、淋毒性  
副睾丸炎患者の最も苦痛とする疼痛及腫  
脹は、本品の使用に依つて速に之を減退  
せしめ、不快なる硬結を胎すこと少く、  
大に治療期間を短縮せしむるを得、と稱  
揚せらる

ネオカルゴノゲンは淋菌ワクチンを特殊の方法を以て處  
理し之に消炎、鎮痛、防腐、殺菌の作用あるウロサミン及  
クロールカルチウムを配合せるものにして普通ワクチンに  
比し數倍量のゴノアンチゲンを含有せり。

包裝 二〇五管入 四・〇〇 三〇管入 一八・〇〇

## 編輯室ヨリ

昨年以來準備ヲ進メテ參リマシタ猪子先生古稀祝賀記念論文集ガ論文四十編ヲ集メテ茲ニ漸ク發刊ノ運ビトナツタ事ヲ皆様ニ對シテ厚ク御禮申上ゲマヘ。種々ノ事情デ發刊ノ遲延シタコトト編輯上不備ノ點ニ就テハ寄稿者諸君ニ對シテ深ク御詫ビ申上ゲマス。

日本外科實函モ至極穩健ニ發育シテ將ニ第七週年ヲ終リ愈々來年ハ第八卷ヲ迎ヘル事ニナリマシタ、本秋島瀉教授ガ國際外科學會カラ御歸學遊バサレマシタカラ從來ノ磯部教授臨床講義トトモニ久シ振リデ島瀉教授ノ臨床講義モ第八卷カラ每號必ラズ掲載ノ豫定デアリマスシ、其他臨床欄ノ記事ニ向ツテハ來年度ニ於テ色々ノ抱負ヲ持ツテ居リ號ヲ追ヒ漸次具體化サセテ行キ度イト存ジマスカラ何卒日本外科學會雜誌同様御愛讀御投稿下サランコトヲ御希ヒ致シマス。

尙此ノ記念論文集發刊ニ當ツテ多大ノ後援ヲ戴イタ森田醫科器械店、島津レントゲン部、武田長兵衛商店、堂坂、岩佐、白井松醫科器械店、バーゼル會社日本學術部、福井七商店、鹽野義商店、英弘商會ニ對シテハ深ク感謝スル次第デアリマヘ。

昭和五年十二月發刊ノ日

# 第八卷第一號豫告

## 〔原 著〕

- 營養ノ骨折治癒ニ及ボス影響ノ實驗的研究……………岡 部 健 三 郎  
交感神經切除ノ血清沃度酸値及血糖量ニ及ボス影響並ニ副腎ノ組織學的變化  
前篇，交感神經切除ノ血清沃度酸値ニ及ボス影響ニ就テ……………佐 々 木 猛 次  
實驗的海狸結核ニ及ボス日光々線，紫外線及ビ熱線ノ影響ニ就テ  
第四編，前二編ノ實驗補正，並ニ電熱反射光線，人工太陽燈濾過光線及ビ  
人工太陽燈光線ノ影響比較……………中 野 岩 吉  
第二回報告腎動脈ヲ結紮シタル場合腎血管ノ短時間結紮ガ腎臟ニ及ボス影響  
ニ就テノ實驗的研究……………鈴 江 瑞 穂

## 〔臨 床〕

- S字狀結腸ノ軸轉不通症ニ就テ……………小 山 田 豊  
腸管脂肪腫ニ因スル小腸重疊症……………山 本 明 治  
烏瀉教授臨床講義……………烏 瀉 隆 三

## 〔學 會〕

第三十一回近畿外科學會

## 〔外 國 文 獻〕

胃寫眞ノ臨床的經驗其他10編

## 〔雜 錄〕

烏瀉教授洋行談

## 〔會 報〕

昭和五年十二月二十日印刷  
昭和五年十二月廿五日發行

編輯兼發行者 京都市左京區吉田二本松二〇ノ二  
西 村 政 太 郎

印刷者 京都市中京區柳馬場三條南  
藤 井 政 之 助

印刷所 京都市中京區柳馬場三條南  
株 式 會 社 似 玉 堂

發行所 京都帝國大學醫學部外科學教室  
日本外科實函編輯室  
(猪子、伊藤兩教授記念會)  
振替口座大阪五八二七八番

新發賣

創傷 糜爛 新劑

デス・ザルベ

DES—SALBE

一般創傷、糜爛、潰瘍、濕疹等を始めとし、外科、皮膚科、婦人科、眼科耳鼻科等の領域に廣汎なる用途を有す

一般軟膏に比し、表皮形成作用著しく迅速にして、健康肉芽の催生又極めて顯著、乾燥性大にして、而も創面に固着せざる等幾多の特色を有す。

デス・ザルベは亞鉛華軟膏中に、組織新生並に細胞抵抗力を増強する作用強大なる肝油を配し、更に創液の吸収を佳良ならしむる目的にて、二、三の藥物を附加して成れる新軟膏劑なり。

用法 リント又はフランネルに展延して貼布す

包裝 25瓦入 100瓦入 500瓦入

貯法 尋常藥

東京・室町 三 共 株 式 會 社

大 阪・臺 北・紐 育

# 糜爛傷

を短時日に  
快癒する……

# デシチン

たゞれたり、膿を分泌したり、或は痂皮が出来たやうな所謂「治りにくい傷」を極めて  
短い時日で、しかも無痛無刺戟的に治癒せしむるヴァイタミンA外用劑であります。

## 皮膚細胞を新生す

糜爛せる創面を保護しながら、患部の栄養と生活力  
とを復活して、白血球を増加し、皮膚細胞の自壊を  
阻止し、肉芽表皮を新生する皮膚強壯療法で、單なる  
防腐劑ではありません。

## 繃帶がスラと剝離す

従つて毫も創面に刺戟を與へないのみでなく繃帶が  
クツつかないですらくくと剝がれ、一日毎に治癒の  
進行が認めらるゝなど最も進歩せる藥劑であります

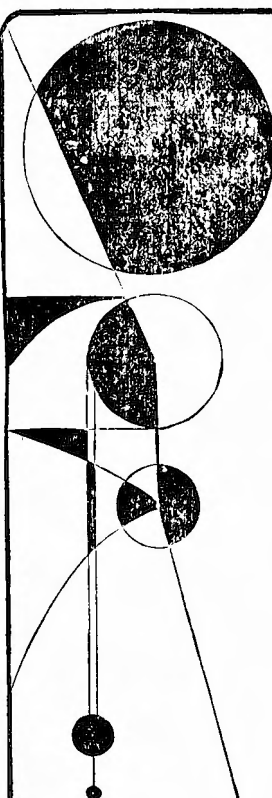
外傷、凍傷、火傷、糜爛性皮膚炎  
膿痂疹、X線潰瘍、褥瘡、耳漏  
痔疾、軟下疳、腔糜爛等に用途廣汎。

軟膏  
五〇瓦、九〇瓦、三〇瓦 發賣元

坐藥——二個、五〇個 株式會社 田邊元三郎商店  
腔球六個。撒布劑 三〇瓦  
東京市日本橋區本町







# Neo Neo-Arsemin

## 驅黴砒素劑 ネオ、ネオ、アーセミン

的確なる驅黴効果と安全なる處置を期する爲に  
ネオ、ネオ、アーセミンの御撰用を奨む。

溶解迅速 奏効優秀  
使用簡易 副作用皆無

各號共一本毎ニ一割増券添付

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| No. 1 (0.15 gr) | No. 4 (0.60 gr) |
| No. 2 (0.30 gr) | No. 5 (0.75 gr) |
| No. 3 (0.45 gr) | No. 6 (0.90 gr) |

各號共十本入包裝の特價品あり

献送呈

第一製藥株式會社

東京市日本橋區江戸橋三丁目  
大阪市東區道修町二丁目

# 新刊發賣=特價提供

慶應義塾  
大學講師 醫學博士 前田友助 著

特價期間 昭和六年  
一月末日

## 骨折と其の診療法附脱臼

全一冊・四六倍判型  
本綴・總一ト紙刷型  
紙數 五百二十個  
挿圖 六百七十二個  
正 價 金 拾 圓  
特 價 金 八 圓 五 拾 錢  
郵 稅 (内地 金 二 十 四 錢  
領土 金 六 十 五 錢)

從來骨折の治療成績は甚だ思はしくなく、往々驚くべき不結果に終つて居る事實から見て、其成績を改善せらるべき點が多々ある。元々骨折は原則として非観血的に治療さるべきものであり、只必要あるものに観血的療法を敢行すべきであるが、この見解をつけることが最肝要である。骨折と見れば無暗に手術するの不可なるは勿論之れと反對に只譯もなく手術を忌避するものも其當を得ない。又在來の骨折の観血的療法は多くの不備の點がある。就中國定用の材料としての物質の選擇竝に固定法の形式の研究が足りなかつた事は多大の缺點である。就中國現在の狀態では例へば大腿骨の完全骨折で一度著しい縱軸移動が起つた様なものは醫者も患者も治後多少の障礙を遺すのが當然の様に信じて居るが、之れは怪しからぬ事である。骨も人體組織の一である以上、其損傷に對し必要に應じ適當なる手術的方法を施して生理的狀態に復するに努力すべきであり、又多くの場合其は甚だ困難でない。

以上は著者の述懐の一部である。著者は此意氣を以て本書に草した。氏は眞摯な斯學の研鑽者であり、熱心なる診察家であり、將又豊富なる經驗の持主として令名あり、従て之れが顯はれである以上本書の内容は甚だ興味ある讀物であると信ずる。四六倍判大型五百數十頁挿圖六百七十二個の一大新著であり、挿圖の大部分は著者實驗寫眞の占むる所であつて斯の如きは他書に見出し難い。之れ内容の優秀と相並んで本書の權威とする所である。

### ◆目概容内◆

第一編 骨折の總論	第九編 假關節治療法	第十編 遠側桡尺關節
第二編 骨折の發生	第十編 開放性骨折の治	第十一編 腕關節脫臼
第三編 骨折の診察	第十一編 治療法	第十二編 肘關節脫臼
第四編 骨折部の病理	第十二編 治療法	第十三編 膝關節脫臼
第五編 骨折の變化	第十三編 骨折の治	第十四編 股關節脫臼
第六編 骨折の合併症	第十四編 骨折の恢復	第十五編 膝關節脫臼
第七編 骨折の非観血的	第十五編 骨折の恢復	第十六編 膝關節脫臼
第八編 骨折の観血的	第十六編 骨折の恢復	第十七編 膝關節脫臼
第九編 骨折の観血的	第十七編 骨折の恢復	第十八編 膝關節脫臼
第十編 骨折の観血的	第十八編 骨折の恢復	第十九編 膝關節脫臼
第十一編 骨折の観血的	第十九編 骨折の恢復	第二十編 膝關節脫臼
第十二編 骨折の観血的	第二十編 骨折の恢復	第二十一編 膝關節脫臼
第十三編 骨折の観血的	第二十一編 骨折の恢復	第二十二編 膝關節脫臼
第十四編 骨折の観血的	第二十二編 骨折の恢復	第二十三編 膝關節脫臼
第十五編 骨折の観血的	第二十三編 骨折の恢復	第二十四編 膝關節脫臼
第十六編 骨折の観血的	第二十四編 骨折の恢復	第二十五編 膝關節脫臼
第十七編 骨折の観血的	第二十五編 骨折の恢復	第二十六編 膝關節脫臼
第十八編 骨折の観血的	第二十六編 骨折の恢復	第二十七編 膝關節脫臼
第十九編 骨折の観血的	第二十七編 骨折の恢復	第二十八編 膝關節脫臼
第二十編 骨折の観血的	第二十八編 骨折の恢復	第二十九編 膝關節脫臼
第二十一編 骨折の観血的	第二十九編 骨折の恢復	第三十編 膝關節脫臼
第二十二編 骨折の観血的	第三十編 骨折の恢復	第三十一編 膝關節脫臼
第二十三編 骨折の観血的	第三十一編 骨折の恢復	第三十二編 膝關節脫臼
第二十四編 骨折の観血的	第三十二編 骨折の恢復	第三十三編 膝關節脫臼
第二十五編 骨折の観血的	第三十三編 骨折の恢復	第三十四編 膝關節脫臼
第二十六編 骨折の観血的	第三十四編 骨折の恢復	第三十五編 膝關節脫臼
第二十七編 骨折の観血的	第三十五編 骨折の恢復	第三十六編 膝關節脫臼
第二十八編 骨折の観血的	第三十六編 骨折の恢復	第三十七編 膝關節脫臼
第二十九編 骨折の観血的	第三十七編 骨折の恢復	第三十八編 膝關節脫臼
第三十編 骨折の観血的	第三十八編 骨折の恢復	第三十九編 膝關節脫臼
第三十一編 骨折の観血的	第三十九編 骨折の恢復	第四十編 膝關節脫臼
第三十二編 骨折の観血的	第四十編 骨折の恢復	第四十一編 膝關節脫臼
第三十三編 骨折の観血的	第四十一編 骨折の恢復	第四十二編 膝關節脫臼
第三十四編 骨折の観血的	第四十二編 骨折の恢復	第四十三編 膝關節脫臼
第三十五編 骨折の観血的	第四十三編 骨折の恢復	第四十四編 膝關節脫臼
第三十六編 骨折の観血的	第四十四編 骨折の恢復	第四十五編 膝關節脫臼
第三十七編 骨折の観血的	第四十五編 骨折の恢復	第四十六編 膝關節脫臼
第三十八編 骨折の観血的	第四十六編 骨折の恢復	第四十七編 膝關節脫臼
第三十九編 骨折の観血的	第四十七編 骨折の恢復	第四十八編 膝關節脫臼
第四十編 骨折の観血的	第四十八編 骨折の恢復	第四十九編 膝關節脫臼
第四十一編 骨折の観血的	第四十九編 骨折の恢復	第五十編 膝關節脫臼
第四十二編 骨折の観血的	第五十編 骨折の恢復	第五十一編 膝關節脫臼
第四十三編 骨折の観血的	第五十一編 骨折の恢復	第五十二編 膝關節脫臼
第四十四編 骨折の観血的	第五十二編 骨折の恢復	第五十三編 膝關節脫臼
第四十五編 骨折の観血的	第五十三編 骨折の恢復	第五十四編 膝關節脫臼
第四十六編 骨折の観血的	第五十四編 骨折の恢復	第五十五編 膝關節脫臼
第四十七編 骨折の観血的	第五十五編 骨折の恢復	第五十六編 膝關節脫臼
第四十八編 骨折の観血的	第五十六編 骨折の恢復	第五十七編 膝關節脫臼
第四十九編 骨折の観血的	第五十七編 骨折の恢復	第五十八編 膝關節脫臼
第五十編 骨折の観血的	第五十八編 骨折の恢復	第五十九編 膝關節脫臼
第五十一編 骨折の観血的	第五十九編 骨折の恢復	第六十編 膝關節脫臼
第五十二編 骨折の観血的	第六十編 骨折の恢復	第六十一編 膝關節脫臼
第五十三編 骨折の観血的	第六十一編 骨折の恢復	第六十二編 膝關節脫臼
第五十四編 骨折の観血的	第六十二編 骨折の恢復	第六十三編 膝關節脫臼
第五十五編 骨折の観血的	第六十三編 骨折の恢復	第六十四編 膝關節脫臼
第五十六編 骨折の観血的	第六十四編 骨折の恢復	第六十五編 膝關節脫臼
第五十七編 骨折の観血的	第六十五編 骨折の恢復	第六十六編 膝關節脫臼
第五十八編 骨折の観血的	第六十六編 骨折の恢復	第六十七編 膝關節脫臼
第五十九編 骨折の観血的	第六十七編 骨折の恢復	第六十八編 膝關節脫臼
第六十編 骨折の観血的	第六十八編 骨折の恢復	第六十九編 膝關節脫臼
第六十一編 骨折の観血的	第六十九編 骨折の恢復	第七十編 膝關節脫臼
第六十二編 骨折の観血的	第七十編 骨折の恢復	第七十一編 膝關節脫臼
第六十三編 骨折の観血的	第七十一編 骨折の恢復	第七十二編 膝關節脫臼
第六十四編 骨折の観血的	第七十二編 骨折の恢復	第七十三編 膝關節脫臼
第六十五編 骨折の観血的	第七十三編 骨折の恢復	第七十四編 膝關節脫臼
第六十六編 骨折の観血的	第七十四編 骨折の恢復	第七十五編 膝關節脫臼
第六十七編 骨折の観血的	第七十五編 骨折の恢復	第七十六編 膝關節脫臼
第六十八編 骨折の観血的	第七十六編 骨折の恢復	第七十七編 膝關節脫臼
第六十九編 骨折の観血的	第七十七編 骨折の恢復	第七十八編 膝關節脫臼
第七十編 骨折の観血的	第七十八編 骨折の恢復	第七十九編 膝關節脫臼
第七十一編 骨折の観血的	第七十九編 骨折の恢復	第八十編 膝關節脫臼
第七十二編 骨折の観血的	第八十編 骨折の恢復	第八十一編 膝關節脫臼
第七十三編 骨折の観血的	第八十一編 骨折の恢復	第八十二編 膝關節脫臼
第七十四編 骨折の観血的	第八十二編 骨折の恢復	第八十三編 膝關節脫臼
第七十五編 骨折の観血的	第八十三編 骨折の恢復	第八十四編 膝關節脫臼
第七十六編 骨折の観血的	第八十四編 骨折の恢復	第八十五編 膝關節脫臼
第七十七編 骨折の観血的	第八十五編 骨折の恢復	第八十六編 膝關節脫臼
第七十八編 骨折の観血的	第八十六編 骨折の恢復	第八十七編 膝關節脫臼
第七十九編 骨折の観血的	第八十七編 骨折の恢復	第八十八編 膝關節脫臼
第八十編 骨折の観血的	第八十八編 骨折の恢復	第八十九編 膝關節脫臼
第八十一編 骨折の観血的	第八十九編 骨折の恢復	第九十編 膝關節脫臼
第八十二編 骨折の観血的	第九十編 骨折の恢復	第九十一編 膝關節脫臼
第八十三編 骨折の観血的	第九十一編 骨折の恢復	第九十二編 膝關節脫臼
第八十四編 骨折の観血的	第九十二編 骨折の恢復	第九十三編 膝關節脫臼
第八十五編 骨折の観血的	第九十三編 骨折の恢復	第九十四編 膝關節脫臼
第八十六編 骨折の観血的	第九十四編 骨折の恢復	第九十五編 膝關節脫臼
第八十七編 骨折の観血的	第九十五編 骨折の恢復	第九十六編 膝關節脫臼
第八十八編 骨折の観血的	第九十六編 骨折の恢復	第九十七編 膝關節脫臼
第八十九編 骨折の観血的	第九十七編 骨折の恢復	第九十八編 膝關節脫臼
第九十編 骨折の観血的	第九十八編 骨折の恢復	第九十九編 膝關節脫臼
第九十一編 骨折の観血的	第九十九編 骨折の恢復	第一百編 膝關節脫臼

發行所 東京市本町二區(電話)小石川(電話)七三六番(番)南山堂書店

# NUPERCAIN

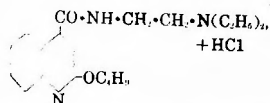
## „CIBA“

新  
局所麻酔薬  
ヌペルカイン「チバ」

局所麻酔劑の歴史に大書さるべき

### ヌペルカイン「チバ」

(歐米に於ける Percain-Ciba)



ヌペルカインは従来の局所麻酔薬と其の化學的構造全く異なるが、アチール・オキシチン・ヒヨニン酸がエチルエチレンゲナムドの鹽酸鹽なり

#### 〔應 用〕

従来の製劑と異り總ゆる局所麻酔に應用し得

#### 使用濃度

シュナイゼン潤麻酔：0.05% (二千倍) — 0.1% (一千倍)

オーベルスト傳達麻酔：0.05% (二千倍) — 0.1% (一千倍)

腰 椎 麻 酔：0.1% (一千倍) — 0.5% (二百倍)

耳鼻咽喉科の粘膜麻酔：1.0% (百 倍) — 2% (五十倍)

口腔、尿道及膀胱麻酔：0.025% (四千倍) — 0.1% (一千倍)

#### 〔特 長〕

- (1) 局所麻酔力極めて強度なり
- (2) 作用持續時間甚だ長し
- (3) 加熱滅菌するも効力減退せず
- (4) 治療の用量範圍に於て中毒を生起せず
- (5) 極めて稀薄溶液を使用するにより廉價也

【御注意】 (1) ヌペルカインは他の總ゆる局所麻酔劑に比し局所麻酔力極めて強度なるを以て其用量及び溶液の調製比例等に對し誤られざる様特に充分なる御注意を乞ふ。(2) 本劑溶液はアルカリに鋭敏なるを以て貯藏保存にはアルカリを含む硬質硝子を使用し又アルカリ性藥劑の配伍を避けられたし。(3) ヌペルカイン溶液の使用に際しては必ずチバ・エヒネフリン (或はアドレナリン) を添加せられたし。

#### 【包 装】

粉 末 1 瓦 入 ・ 5 瓦 入

其 他 錠 劑 ・ 注 射 液

製造元 瑞西バーゼル化學工業會社  
日本總代理店 株式會社 武田長坂藥商店  
賣 場 東京 小 西 新・島 原・三 共  
特 約 店



# das neue Lokalanästheticum

## 新局所麻醉劑 ヌペルカイン・チバ 臨牀治験拔萃

大阪醫科大學第一外科教室

ドクトル フリッツ ヘルテル先生  
醫學士 清水源一郎先生

余等はヌペルカインを以て當科の大小手術壹百餘例の臨牀實驗に應用したり。其何れも從來の局所麻醉藥にて手術せるものよりも術後の疼痛は甚だしく輕度なるか或は全く無痛なりしは、最も愉快な感ずるものなり。特に蟲様突起切除術ヘルニヤ痔の數例の如きは術後患者は讀書又は事務の打合を爲したる如き現象は未だ嘗て見ざるころなり要するにヌペルカインは、溶液の調製容易なる事特に耐熱性なる事從來の藥劑に比し有效持續時間長く、手術後の疼痛少きか或は全く無痛なる事は吾々外科醫の最も慶賀すべきものなり。然も副作用を少しも認めず。後疼痛の爲術後或は術前モヒ其他の補助麻醉も不要なりき。(大阪醫學會講演要旨昭和五年二月二十日於大阪醫科大學講堂)

日本赤十字社病院外科

主任 醫學博士 陰山 案先生  
醫學士 齋藤 繁治先生

「ヌペルカイン・チバを外科領域に應用し全例に於て、よく麻醉の使命を達し手術を容易に施行し得るのみならず在來の局所麻醉藥に比し遙かに優れたる長所を有す。即ち在來にては到底局所麻醉藥を用ひ施行し得ざる小兒も何の苦痛なく手術を完行せられ「クロロホルムエーテル」の使用範圍益々狹少せらるゝ感あり。麻醉持續時間長き爲術後疼痛を訴ふることなく又之あるも極めて輕度のもの故鎮痛劑投與の要なし。又日常使用量範圍にては副作用なき爲老若を問はず使用せられ習慣作用等の忌むべきものなし。

大阪齒科醫學專門學校藥學教室

醫學博士 黒田 鶴治先生

新局所麻醉劑ヌペルカインの藥理作用に就て實驗したる成績より觀察するときはヌペルカインは知覺麻痺力甚だ強く煮沸消毒に對し安定にして且つ組織の障導性なく血管擴張性あるもアドレナリン(チバ・エヒネフリン)の混和により其缺點を補ふことを得しかも臨床上甚だ稀薄溶液(0.1%乃至0.05%)に於て有効にして注射表面兩麻醉に適し麻醉の持續大なるを以て今後臨牀的研究の興味あるものと思ふ。ヌペルカインの知覺麻痺を誘起する濃度と同一の知覺麻痺を起すココインの濃度を比較するときはヌペルカインはココインより毒性少し。(口腔病學會雜誌第四卷第二號昭和五年六月二十日發行)

千葉醫科大學

名譽教授 三輪 德寬先生  
醫學博士

「余のヌペルカインに對する實驗成績を綜括するに本劑はヒノリン誘導體の一新麻醉持續藥にして從來知られたる麻醉劑中最も有効にして且麻醉持續時間最も長し、本劑は外科手術の局所麻醉劑として優れたるのみならず粘膜及表皮に麻醉にも用ひらる。從來全身作用あるモルヒネ等によりて漸く到達せる目的は本劑によりて能く達し得べし」(三輪外科診斷及療法、外科診斷及療法手技第三卷昭和五年五月一日發行)

東京帝國大學醫學部產科婦人科教室(主任磐瀨教授)

日本醫科大學產婦人科教室

醫學博士 岩田 正道先生

(前文略)其始めは専らヌペルカイン溶液の少量を以て事足る膣式手術、局所的小手術に用ひ次で漸次其用量を増して浸潤麻醉による開腹手術に應用し効果の程度、持續、副作用の有無を注意して觀察し最後に之を腰椎麻醉に用ひ同じく効果副作用を觀察しトロパコカインとの比較を試みたり。未だ研究續行中なるも症例中各種の婦人科手術を包括せるに何れも其効果見るべく殊に從來のココイン及其誘導體の遠く及ばざる長所を具備せるを確認し得たり。(日本婦人科學會雜誌第二十五卷第八號昭和五年八月一日發行)

栃木縣立宇都宮病院耳鼻咽喉科

醫學博士 山本 常一先生

「表面麻醉の目的に2%ヌペルカイン溶液はココインの15—20%溶液に相當せり。ヌペルカインは其麻醉効力時間長し、ココインの如き苦味なく、又習慣性副作用なし、臨牀上の使用量に於てココインよりも十分の一の安値なり。ヌペルカインは浸潤麻醉として0.05%傳達麻醉にも0.05%溶液を用ふ但し使用の際必ず二十滴毎に十滴のチバ・エヒネフリンを滴下す。(治療及處方第十一年第十一卷第六冊第百二十四號昭和五年七月號)

瑞西ベルン大學藥學教室

DR. FR. UHLMANN

「あらゆる新局所麻醉劑中ヌペルカインは浸潤傳達麻醉の外粘膜にも強度に作用し加熱によりて滅菌するを得且つ頗る長時間に及べる作用持續性を有せる等絶大なる特長を有す。」

(Narkose und Anaesthesie, H. 6, 1929.)

# 近藤外科學

諸大名家分擔執筆  
編輯主任 醫學博士 鹽田廣重

## 第五卷下出來

- |  |   |   |   |   |
|--|---|---|---|---|
| <p><b>第一卷</b><br/>成既(紙數四百四十七頁・精巧圖畫二百六十圖) 價正金六圓<br/>料送(領土一八錢)</p> | <p><b>第二卷</b><br/>成既(紙數四百十七頁・コロタイプ圖三葉精巧圖畫及彩色圖等二百三十圖) 價正金五圓五拾錢<br/>料送(領土一八錢)</p> | <p><b>第三卷上</b><br/>成既(紙數二百一十一頁・精巧圖畫五十九圖) 價正金貳圓五拾錢<br/>料送(領土一四錢)</p> <p>▲脊椎之損傷及疾患 ▲骨髓及其被膜之損傷及疾患 ▲骨盤之損傷及疾患 ▲植物性神經外科</p> | <p><b>第三卷中</b><br/>成既(紙數三百九十頁・精巧圖畫四十九圖) 價正金五圓<br/>料送(領土一八錢)</p> <p>▲腹壁之損傷及疾患 ▲肝臟及膽道之損傷及疾患 ▲脾臟之損傷及疾患 ▲脾臟之損傷及疾患 ▲胃之損傷及疾患 ▲直腸及肛門之損傷及疾患 ▲ヘルニア總論</p> | <p><b>第五卷上</b><br/>成既(紙數五百頁・精巧圖畫二十四圖) 價正金七圓<br/>料送(領土一八錢)</p> <p>▲軟部損傷 ▲骨之損傷 ▲關節之損傷 ▲炎症及疾患 ▲骨之疾患 ▲關節之疾患</p> |
|--|---|---|---|---|

### 第五卷下新刊

紙數百七十八頁 價正金貳圓 料送(領土一八錢)  
寫真版圖其他百五十三圖 價正金貳圓 料送(領土一八錢)  
醫學博士 井深健 次著  
醫學博士 岩崎小四郎著

#### 臨救急外科手術學

全三卷 一判一布 裝冊 價正金一圓 料送(領土一八錢)

#### 撰新局所麻醉

全一卷 一判一布 裝冊 價正金一圓 料送(領土一八錢)

#### 外科治療學總論

全五卷 一判一布 裝冊 價正金五圓 料送(領土一八錢)

#### 外科手術後療法

全三卷 一判一布 裝冊 價正金六圓 料送(領土一八錢)

好評噴々

森武美

阿部健

柳壯一

有光藤三郎

京都中區寺町通御池南  
**江堂**

(大阪) 振替 五〇五一番  
(上) 電話 三〇番

發行所

東京市本郷區春木町三丁目  
**江堂書局**

(東京) 振替 〇一五三番  
(小石川) 電話 九六九三番

新 發 賣

# 力デニシ Camdenin "Torii"

## 救急の栄養と強心作用を兼ねたる 葡萄糖力ニフル注射劑

葡萄糖の栄養強心解毒作用にカンフルの適確なる強心作用を加へ以て屢々遭遇する葡萄糖のみの注射に因る惡寒戰慄其他の副作用を絶対に除去し相互の効力を完全に達せしむる最も理想的製劑なりとす。乞ふ御使用あらんことを

(格 價 裝 包)

張別	番號	葡萄糖含有%	カンフル含有%	容 量	包 裝	價 格
高張	壹號	二五%	〇、〇五瓦	二〇cc	五管入	二、一〇
同	貳號	二五%	〇、〇五瓦	五〇cc	三管入	二、五〇
同	參號	五〇%	〇、〇五瓦	二〇cc	五管入	二、四〇
同	四號	五〇%	〇、〇五瓦	五〇cc	二管入	二、六〇
等張	五號	五%	〇、一瓦	一〇〇cc	二管入	一、八〇
同	六號	五%	〇、一瓦	二五〇cc	一管入	一、八〇

(御用命の際は番號を以て御指示を乞ふ)

文 献 贈 呈

發 賣 元

株式會社 鳥 居 商 店

東京市日本橋區岩附町三番地

大阪市東區道修町一丁目

關西代理店

三共株式會社大阪出張所

(大 物 實)



便利  
便利  
濟  
糸 病院用  
巻 式  
絆  
創

膏

各 壹 函

金 壹 圓 六 拾 錢

種 類		米 5 各		サ 長	
一號	幅 〇・六 厘	拾 個 函 入	二號	幅 一・〇 厘	六 個 函 入
三號	幅 一・三 厘	五 個 函 入	四號	幅 一・五 厘	四 個 函 入
五號	幅 二・〇 厘	參 個 函 入	六號	幅 三・〇 厘	貳 個 函 入

病院用糸巻絆創膏は總て亞鉛華絆創膏にして各號共幅の合計六厘を位とし一函に包裝 (例へば○・六厘單は十個入一・〇厘は六個入の如く) 何れも定價金壹圓六拾錢なり一函の内容は普通のもの (○・九一 厘) の約二本分に等しく猶使用に便利なる軸を添付す

展布硬膏類  
軟膏劑 專門

東京南品川

歌橋製藥所

電話 國高輪 二九一 番  
振替 東京 三八三二 番



# 脚氣 營養障礙

一般ビタミン缺乏症

試供品及  
文献贈呈

ビタミンBの含有率最も多量なる米の胚芽より製したる  
強力ビタミンBにして此種製剤中最も優秀價格低廉なり

## ヌトリミン

胚芽ビタミン(ビタミンB)

包装定價	注射劑	2c.c. 5A	¥ 1.00	50A	¥ 7.50
	エキス	100gr	¥ 2.00	225gr	¥ 4.00
	粉末	100gr	¥ 1.90	225gr	¥ 3.80
				450gr	¥ 7.10

特約店  
東京 大阪 鳥居 商店  
武田 長兵衛 商店  
振替東京三三二一  
東京市神田區三崎町三丁目  
發賣元 日新醫學社

# 神經衰弱 性慾障礙

理想的ホルモン製剤

(試供品贈呈)

青春期牡性哺乳動物の睪丸、攝護腺、甲状腺、  
腦下垂體前葉等の生殖聯合ホルモンの鹽酸鹽

## プロクラミン

一般新陳代謝機能を旺盛ならしめ、神經衰弱、生殖器障礙、老衰、  
動脈硬化症、攝護腺炎、パセドウ氏病、喘息等に賞用せらる

包装定價	注射劑	1c.c. 6管	¥ 3.00
	錠劑	50錠 100錠 200錠	¥ 2.50 ¥ 4.50 ¥ 8.50

特約店  
東京 大阪 鳥居 商店  
鹽野 義商店  
振替東京三三二一  
東京市神田區三崎町三丁目  
發賣元 日新醫學社



# 肺臓及脾臓抽出体

# トロムボゲン

新發賣

## 止血劑

特長

- 1 内服用液劑は香味佳快にして服用容易なること
- 2 普通藥に準じ取扱ひ得ること
- 3 腐敗の虞なきこと
- 4 貯藏法簡易にして特に冷蔵を要せず

(文献及供試品贈呈)

トロムボゲンは最新の學理に基き幼動物の肺臓及脾臓組織中に含有せらるゝ強力なる血液凝固促進性物質をその本質を損はざる様周到なる注意と嚴密なる試験の下に毒性物質より分離抽出したるものにして其の止血作用の顯著なるは他に類例を見ざる所なり

適應症

- 内科 咯血 血痰 胃腸出血 腦出血 血液變異性諸症
- 外科 一般外傷出血 手術時出血 後出血制止 痔出血 耳鼻咽喉科 手術時出血 泌尿器科、婦人科、小兒科、眼科、齒科その他總ての場合に於て止血の目的に應用せられ奏効迅速確實なり

### 包裝

注射用	
2.5cc.6管入	¥2.00
5.0cc.6管入	¥3.00
内服用	
5g. 5本入	¥2.00
錠劑	
0.25g 10錠入	(既日發賣)

元費發

店商有友澤藤

日丁二町寺邊區京市阪大  
城 府・東京 店支

T-2

# THROMBOGEN

## HAEMOSTATICUM

◆ 神経痛・ロイマチス・無痛注射剤 ◆

# アンテロイム

効力卓越

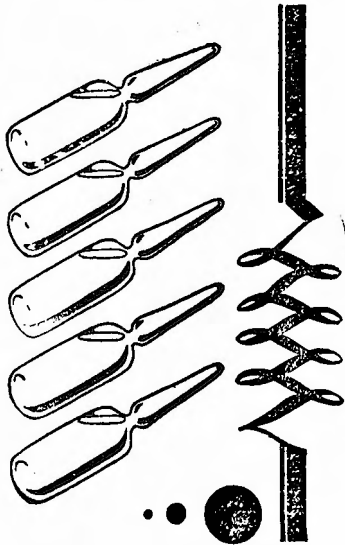
にして弘く臨床醫家の愛用を蒙りつゝ、あり  
文献、試供品御申込次第贈呈す。

「専賣特許」

急性並に慢性ロイマチス、神経痛、關節痛、  
肩凝、腰痛等に對して顯著なる効果を有し特  
に注射時無痛にして副作用皆無なる點等、此  
の種藥品中名聲第一位に進出せり。

組成 ビラゾロン誘導體、鹽酸キニーネ及び尿素誘  
導體を特殊の方法により創製したる複鹽にし  
て本品二%水溶液を以て注射用に供す。

用法 局部の皮下或は筋肉内注射。  
包裝 五筒入 一〇筒入 二〇筒入 五〇筒入



發 賣 元 船井商店製藥部 神戸市元町通五丁目三五

# テオチン Theocin

## 強力内服利尿剤



本品は合成 1,3-ジメチールキサンチンの複鹽にして水に容易に溶解す。

本品の優秀なる利尿作用は既に醫家各位の知悉せらるゝ所にして、他の療法を以て奏效不充分なる場合にありても尙且つ満足すべき利尿作用を與ふ。

本品の作用は極めて確實にして、一日量 0.4 瓦を以て尿量 7 リットル、時には 15 リットルに達せるものあり。

普通用量に於ては、胃過敏患者にも何等支障なく受容し得らる。

【適應症】 心臓性並に腎性水腫、ネフローゼ、脚氣浮腫、腹水、萎縮腎、心臓性喘息、狭心症等。

【包裝】 粉末 10瓦、25瓦、250瓦入。  
錠劑 (各錠 0.1瓦) 100錠入。

文献、試供品  
御希望に依り進呈

バイエル・マイステルチウス薬品合名會社學術部

神戸局郵便私書函一〇七番



# Anaesthesin

難溶性局所麻醉劑

アネステジン

本品は知覺神經の末梢を迅速に麻痺せしめ疼痛を除  
去す。本品は水に難溶性なるを以て其作用は甚だ持  
續的なり。而かも全く刺激症狀を呈せず副作用絶無なり。  
本品は鎮痛・止痒の目的に各科に於て廣く應用せら  
るゝのみならず、特に内科に於ては………

胃痛、妊娠嘔吐、胃潰瘍、  
嚔下困難、船車暈

等に繁用せらる。

〔用法〕 通常一回量〇・三〇・五瓦（一日量二瓦迄）食前に本品

原品のまゝ、又は乳劑、振盪合劑等として服用。

〔包裝〕 粉末 二五瓦、一〇〇瓦、五〇〇瓦入。

文獻、試供品  
御希望に依り進呈

バイエル・マイステルチウス藥品合名會社學術部

神戸局郵便私書函一〇七番

胃痛、妊娠嘔吐……内用



三町修造區栗市阪大  
店商七井福 元章發  
一町附岩區橋本日市京東 所張出京東  
、所究研疫免漏鳥 元造製

# 祝猪子名譽教授記念號發刊

醫學博士 高橋美信氏實驗推獎  
藥學士 久野浩一氏創製

## 殺菌防腐劑

供試品・文獻贈呈

# フルメチジン

化學上 *Diodoxymercurifluorescein* にして無刺激性の殺菌防腐劑なり。アルカリ又はプロテインにより沈澱を生ぜず。

近時米國にて専ら實用さるる *Mercurochrom* 本品の相違せる點はブロームをヨードに代へたる所にある。

【特 徴】 毒力僅微にして、殺菌力強く、作用持長的にして刺激なく組織障害極めて輕微なり。

【適應症】 (1) 新鮮なる創傷の殺菌及び防腐(種々なる外傷性創、手術創、(2) 刺戟を忌む手術後の消毒(小兒の皮膚、一般粘膜、陰囊及び肉芽面等)

(3) 微毒性創、人咬傷、綠膿菌傳染創、泌尿器疾患其他種々なる化膿性疾患

【用法及用量】 (1) 一般創傷 一乃至二%水溶液 (2) 皮膚消毒 一二%酒精溶液 (3) 粘膜消毒 二乃至四%水溶液 (4) 微毒性創及び綠膿菌傳染創 一二%以上の濃厚水溶液

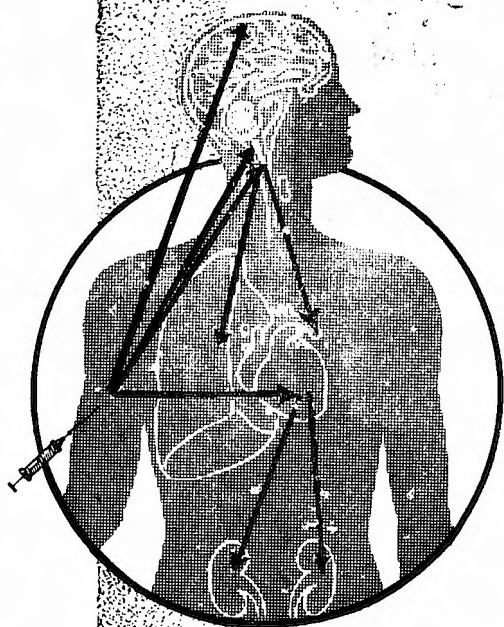
(5) 洗滌用 〇・一%水溶液 (6) 靜脈注射 一%水溶液を二〇乃至一二〇cc 注射す

【包裝】 粉末 一〇五入 二・五〇 二五五入 六・〇〇  
液劑 二%一〇〇cc 入 二・五〇 二%五〇〇cc 入 三・五〇

製造元 圓城商店 發賣元 塩野義商店  
大坂市東區道三町・東京市日本區伊勢二町

強心呼吸強盛劑

コラミンバチ



心臟機能衰弱に對するカムフルの興奮作用と呼吸麻痺回復の兩作用を併有す

水溶性にして効力の發現迅速且持続性なり、延髄の麻痺を回復し呼吸中樞を興奮せしめ呼吸困難を除く、血壓、呼吸及心臟の擴張收縮に對する作用はカムフルに優り而も蓄積作用なく長時持続するも常に均等に作用するが故に正確なる用量を一方し得らる、内服せしむるも吸收速かにして注射と同等の効果を現はす、應用の範圍廣汎なり。

(注射液・内服溶液)

文獻は大塚東照氏  
山口ビルヂング内  
パルセル化学工業社  
日本學術部より製呈

瑞西パーゼレ化学工業社  
日本總代理店 壽元株式会社 武田兵衛商店  
特約店 東京小西新・鳥居・三共





特 許

# 三相交流レントゲン發生裝置

愛 宕 號

瞬間撮影及遠距離撮影用  
並に一般撮影及治療用

記念號發刊

祝猪子先生



(型錄説明書御申越次第贈呈)

株式 ㊦ 會社

## 島 津 製 作 所

### レ ン ト ゲ ン 部

本店 京都市中京區河原町二條南  
 東京支店 京都市神田區錦町一丁目一八  
 九州支店 福岡市西中洲

大阪營業所 大阪市北區中島二丁目二五  
 大連出張所 大連市若狹町四〇番地  
 伯林出張所 伯林市ウーランドストラッセ



# 祝猪先生古稀祝賀紀念號發刊

## 外 科 器 械

其 他 一 般  
醫 科 器 械  
製 作 販 賣  
度 量 衡 器  
計 量 器 販 賣

以 己 心 也

岩 佐 器 械 店

京 都 寺 町 三 條 北  
電 話 二 八 三 五

# 外科器械

醫療器械  
理化學器械  
度量衡器  
計量器  
血清藥品  
繃帶材料

製造販賣

祝

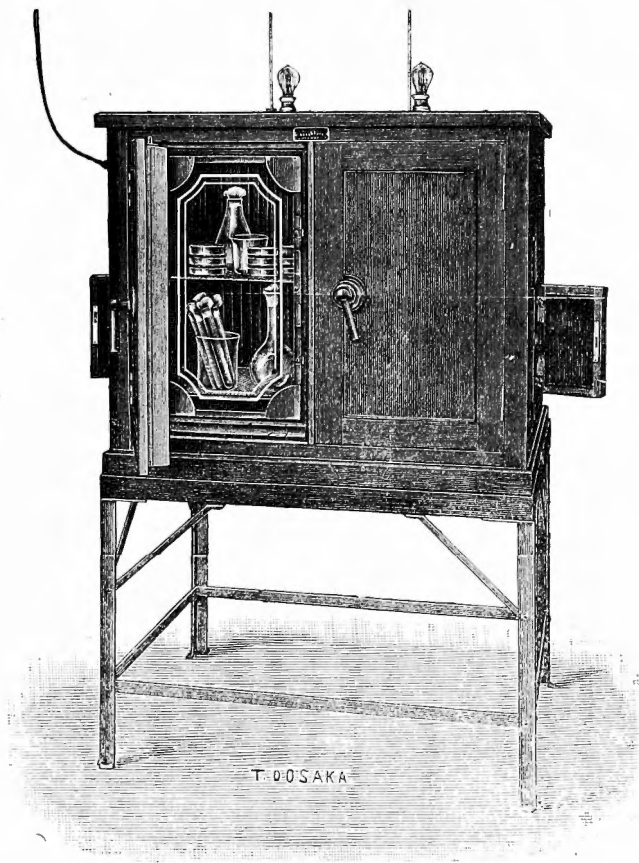
猪子先生  
記念號發刊

株式會社

白井松器械舖

大阪市東區道修町二丁目  
電話本局三六一番

祝 猪子先生古稀記念號發刊



醫學及理化學器械器具  
製作輸出入販賣

株式會社

所 作 製 阪 堂

京都市丸太町橋東詰北入  
電話 三(三)八四三番四六二五番  
工場 京都市岡崎西福ノ川町

祝  
猪子名譽教授古稀記念論文集發刊



大阪市東區道修町

コクチゲン發賣元 福井七商店

出張所 東京市日本橋區岩附町

## 營業科目

ザイツ社細菌爐過器  
レツシホーン社鋼製卷尺  
東洋總代理店

ラウテンシユレーゲル社醫化器械

サニタス電氣會社電氣手術器

ハーゼ氏バイロメーター社電氣溫度器

ハレナハフオルガー社光學レンズ

エルハフース社光學氣象器械

關西一手販賣

ローヤル顯微鏡製造販賣元

光學器械理化器械輸入販賣

祝  
猪子名譽教授  
記念號發刊

合資  
會社

英  
弘  
商  
會

大阪市北區中之島宗是町一二

醫療器械  
理化器械  
電氣器械

製作輸出入販賣

祝  
猪子名譽教授  
記念號發刊

森  
田  
商  
店

京都市麩屋町二條下ル  
電話長上(3)五七六番  
振替大阪五〇〇六七番

祝

猪子名譽教授  
古稀記念號

醫學

新聞  
雜誌

廣告代理業

大阪市東區京橋三丁目七

福田商店廣告部

電話 東三〇八〇番  
振替 大阪四〇二五二番  
口座

# 醫學講習生募集

昭和六年二月二日(月曜日)ヨリ同月二十八日(土曜日)迄本學部ニ於テ左記科目ノ醫學講習會ヲ開ク志望者ハ昭和六年一月十四日限り出願セラルヘシ

一、內 科 學

一、外科學及整形外科學

一、皮膚 黴 毒 學

一、耳 鼻 咽喉 科 學

各科共外來患者臨床講義ヲ行フ委細ハ事務室ヘ照會セラレタシ

京都帝國大學醫學部



祝

猪子名譽教授  
古稀記念號

武田長兵衛商店

大阪市東區道修町二ノ二七

# 消炎鎮痛巴布劑

# エキホス

エキシカ・ホスビン合併新製品



## 醫家向新包裝發賣

多量御使用の醫家各位に對し今回特別安  
價なる五貯入(七圓)新包裝を發賣致しま  
したから一層御愛用の程願ひます。

(適應症)

流感・肺炎・肋膜炎・氣管支炎  
中耳炎・扁桃腺炎・耳下腺炎  
關節炎・神經痛・捻挫・齒痛等

(包裝)

一〇〇瓦 (一・四五)  
二五〇瓦 (一・九〇)  
五〇〇瓦 (一・五〇)  
二キロ瓦 (四・五〇)  
五キロ瓦 (七・〇〇)

發賣元 株式會社 武田長兵衛商店  
株式會社 塩野義商店  
製造元 二巴合名會社

大阪市東區道修町

## Inhaltsverzeichnis.

<b>Fujinami, S.,</b> Ueber den Verlauf der durch die lumbosacrale Ganglionektomie nach Ito-Ohsawa herbeigeführten Heilung des chronischen Unterschenkelgeschwürs. . . . .	1
<b>Ohsawa, T.,</b> Ueber die unilaterale freie Thorakotomie mit oder ohne Kombination mit der transdiaphragmalen bzw. der ventro-arcodiaphragmalen Laparotomie für operative Eingriffe in der dorsalen Tiefe der unteren Apertur der Brust des Menschen. . . . .	9
<b>Tomita, M.,</b> Unterschied zwischen dem Nativantigen und dem Koktoantigen in ihrer prophylaktischen bzw. therapeutischen Wirkung beim Eindringen der Mikroben in die Brusthöhle. . . . .	44
<b>Araki, C.,</b> Beitrag zur operativen Behandlung von Mastdarmprolapsus. .	66
<b>Kambe, N.,</b> Ueber idiopathischen Choledochuszyste. . . . .	74
<b>Mayeda, W. u. Momotani, T.,</b> Ueber die Beziehungen zwischen dem Fibrinogengehalt im Blutplasma und der Erythrocytensenkungsgeschwindigkeit, und den Wert seiner Bestimmung für die Diagnose der chirurgischen Tuberculose. . . . .	84
<b>Hashimoto, M.,</b> Morphologische Forschungen über Nervenendigungen. II. Abteilung: Veränderungen der Nervenfasern und -endigungen durch Nervengifte. . . . .	95
<b>Hashimoto, M.,</b> Über die Knochen -u. Gelenktuberkulose der Chinesen. .	107
<b>Ohno, K.,</b> Die biochemische Untersuchung bei der Heilung der Knochenfraktur. III. Mitteilung. Der Einfluss der intravenösen Injektion des Chlorcalciums auf den Heilungsvorgang der Fraktur. (2. Teil.) Die Versuche mit den einen Tag um den andern wiederholten Injektionen von 0.3 ccm der 1.0% Chlorcalciumlösung pro 1.0 Kg des Körpergewichtes des Kaninchens. . . . .	115
<b>Ohno, K.,</b> Die biochemische Untersuchung bei der Heilung der Knochenfraktur. IV. Mitteilung. Der Einfluss der nicht oralen Applikation der gelben Phosphorolivenoeloesung auf den Heilungsvorgang der Fraktur. . . . .	147
<b>Saigo, K.,</b> Röntgenanatomie des Handgelenks der Japaner und ihre klinische Bedeutung. . . . .	181
<b>Iwashima, T.,</b> Experimentelle Studien ueber den Einfluss der Lumbalanästhesie auf der Darmbewegung. Anhang: Therapeutischer Wert der Anwendung der Lumbalanästhesie bei der sogenannten Darmparese. . . . .	223
<b>Yamamoto, A.,</b> Experimentelle Untersuchung über den Einflusse der Darmspülung und der Anusreizung auf die Dünndarmbewegung. .	278
<b>Tame, T.,</b> Ueber die arterielle Versorgung der Magenwand. II. Mitteilung: Ueber die Blutgefäße der Magenschleimhaut bei Kaninchen. . . . .	306
<b>Tame, T.,</b> Ueber die arterielle Versorgung der Magenwand. III. Mitteilung: Ergebnisse der Erforschung über Hundemagen. . . . .	314

Mori, Y. u. Ohkuma, Y., Ueber die Gewinnung der lokalen aktiven Immunität des subkutanen Gewebes mittels der Einreibung der Strepto-Staphylokoktoimmunogënsalbe. . . . .	330
Taguchi, T., A Case of Carcinomatous Lateral Aberrant Thyroids. . .	351
Fujita, N. u. Nakano, T., Ueber die Peritonitis chronica fibrosa incapaculata (Zuckergussdarm) . . . . .	363
Sakurai, M., Ueber die Darmwandverdickung -schrumpfung und -striktur nach veralteter Amoebendysenterie. . . . .	375
Uyeda, K. u. Nagai, T., Zur Behandlung des Hirndrucks nach Trauma. .	381
Yatagai, K., Ueber die Untersuchungsmethoden der Darmbewegung, insbesondere eine neue graphische Registrierungsmethode. . . . .	389
Kumano, M., Ueber sogenannte Gasperitonitis. . . . .	401
Fukusato, S., Ueber Duodenum mobile. . . . .	415
Miyazaki, M., Röntgenologische Untersuchungen über die Verknöcherung des Brustbeins. . . . .	435
Mori, Y., Über die Tamponierung mit dem gerinnungsfähigen Rinderblutplasma bei schwer blutender Wunde. . . . .	443
Tsujimura, H., Ueber einen mittels freier Thorakotomie operierten Fall von traumatischer Diaphragmahernie. . . . .	456
Araki, Ch., Über das Invasionsfieber. . . . .	469
Tatsumi, K., Das Impedin bei den mit Spirochaeta pallida infizierten Kaninchenhoden. . . . .	534
Aoyaghi, Y., Was für Lebewesen produzieren Impedine? . . . . .	564
Suzue, M., Experimentelle Untersuchungen über den Einfluss temporärer Gefässtielabklemmung auf die Niere. . . . .	581
Hara, M., Chirurgische Anwendung der Lymphgefässiinjection. . . .	617
Takaghi, S., Ein Fall von Fibroma ossificans der Schilddrüse. . . .	621
Horiuchi, S., Ueber die Operation der akuten allgemeinen durch Perforation des Wurmfortsatzes verursachten Peritonitis. . . . .	624
Yoshimasu, Y., Kritik der verschiedenen Behandlungsarten der akuten Peritonitis. . . . .	632
Soejima, Y., Ueber die sog. Frühoperation bei akuter Wurmfortsatzentzündung. . . . .	662
Soejima, Y., Ueber die Auskultation des Abdomens. . . . .	665
Uyama, S., Ueber die bakterizide Wirkung des Alkohols und seine Sterilisationsmethode. . . . .	669
Ito, H., Vergangenheit und Zukunft der Chirurgie des vegetativen Nervensystems. . . . .	675
Torikata, R., Die Erforschung über das Impedin und das Koktigen. .	688
Torikata, R., Fortschritte in der Chirurgischen Universitätsklinik, Kyoto. . . . .	694